



今月の記事

老施協全国大会

秋の遠足

ユニット便り

リレーエッセイ

今月の愛の園

老人福祉施設全国大会・和歌山大会に参加

東京都にある特養施設職員から「オムツゼロへの挑戦」と題しての講義がありました。その施設は長期入居者90名、ショートステイ利用者10名で愛の園と同じユニット型施設でした。ケアの取り組み方は「自立支援」を方針としてそれに向けたケアを計画・実施し、水分補給・運動ケアといったところからスタートしていました。オムツをする原因のひとつは便失禁であり、対象となる入居者の下剤を中止し、規則正しい生活と食事をし、1日飲用で1500ml程の水分摂取を目標にしているとのことでした。生活の中で歩行訓練等を行い、5年後には便失禁がなくなり下剤を中止したことで夜間は良眠され、トイレ内で排泄できることも多くなったとの発表でした。(介護職員 鳥本健太)

待・介護放棄、介護者不在、介護困難、住居問題等を挙げられています。

しかし厚生労働省は2015年から症状の軽い「要介護2」以下の人は新たな入居を認めない方針で、給付費がかさむ特養などの施設から自宅でサービスを受ける在宅介護に移るよう促していくそうです。

特養に申し込みながら入居できない約40万人の待機者がいることを考慮しても、要介護度が低いから在宅介護でということとはなかなか難しい問題だと感じました。

(生活相談員 池田貴之)

特別養護老人ホームの入居者に占める軽度の要介護者の割合は平成23年度では11.8%となっており、一定程度の軽度者が入居している現状があると報告がありました。軽度の特養入居の理由としては経済的な理由や虐



全体会では介護保険制度改定の動向を学びました



チャペルの屋上で青空に映える「ラファエルの鐘」。1967年に作られ百合の十字架が刻まれています。

白浜水族館などへ秋の遠足

介護職員

木村しずか

今回、担当者として秋の遠足に初めて参加させていただきました。行先は、白浜町の京都大学水族館見学、かんぼの宿での昼食、名勝千畳敷での散歩というコースでした。

私がご一緒させていただいた入居者の方は普段から自宅に帰りたいとの気持ちを強く持っておられる方でした。出発前から少し不安に思っていました。外出する機会もなかなかないので、この機会を十分に楽しんでいただけるように心掛けました。

京都大学水族館では、入居者の方々それぞれがゆったりと楽しむことが出来たと思います。

かんぼの宿での食事の際には、食堂を貸し切

りのような感じで気兼ねなく食べることが出来ましたし、食事の内容に関しても食べやすく量も程良かったと思います。

その後、千畳敷へ入居者の方と一緒に歩いて移動をしました。なんということのない距離でしたが、お年寄りにとってはかなり疲れたのではないのでしょうか。千畳敷に到着して入居者の方々と一緒に綺麗な海を眺めつつお話をしました。

今回の遠足は、私にとって非常に良い経験となりました。今後も参加することがあるならば今回の経験を生かしてより良い遠足に出来ればと思いました。





ユニット便り 5ユニット

5ユニットはショートステイサービスを利用される方々を対象としたユニットです。毎週利用される方から月に1回利用される方まで様々にご利用いただいています。



利用者の方々の作品が壁一面を豊かに飾っています

利用中に利用者同士が顔見知りになったり、「今日は〇〇さんは来てないか？」とお話しを楽しみにされている方もおられます。

私達ユニットの職員は、出来るだけ自宅と同じように寛いでいただき、自宅での生活に近づけるようにと考え対応させていただきます。

ユニットのリビングには大きな白い壁があり、利用中に塗り絵や毛筆等をしていただき、利用者の方々の作品を飾っています。

隣接する2階テラスには花を植えて育てています。利用中の生活を少しでも楽しく過ごしていただければと思います。

これからも利用者の皆さん、ご家族の皆さんが安心してショートステイサービスを利用していただけられるように、5名の職員が力を合わせて対応させていただきたいと思っています。

介護職員

谷口政人

リレーエッセイ(17)「私の趣味」

リレーエッセイの依頼を受けて何を書けばよいのか迷い考えましたが、今年7月から始めた趣味のことを書こうと思います。

きっかけは沖縄へ旅行に行き、海上でパラセーリングやバナナボートなどで遊び、綺麗な海にびっくりし、海の中はどんなだろうと思ったからです。

その趣味とはスキューバダイビングです。始めるにあたって一番不安だったのは私自身泳げないことだったのですが、そんなことは関係なく、水中では空気のタンクを背負えば呼吸はでき、BCというちょっとした浮き袋のような機材を背負い、フィンも履くと水中でも自由に動きました。

潜るためにはライセンスを習得しなければならないので、試験を受けてライセンスをとり潜り始めたのですが、水中は別世界のようでした。ゆらゆら動いているイソギンチャクや

その中で住んでいるクマノミ、サンゴの間で泳いでいる色とりどりの魚など今まで味わったことのない所でした。

魚たちもダイバーを恐れるような様子もあまりなく、近寄ってくる魚もいれば一緒に泳ぐ魚たちもいて、癒しの場所になっており、始めてよかったと思います。

次は9ユニットの吉田征弘さんにバトンタッチします。



「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>

11～12月の愛の園

- 11(月) インフルエンザ予防接種開始
- 12(火) マリア会
- 14(木) やまびこ会
- 16(土) ボランティアの集い
- 17(日) 日曜礼拝
- 19(火) ひまわり会
- 21(木) やまびこ会
- 24(日) 日曜礼拝
- 26(火) マリア会
- 27(水) 歯科診療 岩田幼稚園児来園
- 28(木) やまびこ会

- 1(日) 日曜礼拝
- 3(火) マリア会
- 5(木) やまびこ会
- 8(日) 日曜礼拝

編集者から

「地域包括ケア」。最近この言葉がよく新聞やテレビで取り上げられているのを目にします。厚生労働省では、2025年(平成37年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。

住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現することが出来れば、高齢者の方々のQOLも飛躍的に高まるのではと思います。(C)